

# 銀友

本郷学園  
同窓会誌

平成16年6月1日

第33号



❧ 総会のお知らせ ❧

日時 平成16年6月19日 15:00より

場所 本郷学園会議室

(懇親会は17:00より)

# 銀友三十三号 目次 平成十六年六月一日

会長挨拶……………	山内 英夫	1	平成十五年同窓会理事親睦旅行報告……………	21
本郷学園理事長挨拶……………	松平 頼武	3	平成十五年定期総会報告……………	平野 隆之
本郷の先生たち……………	平田 満男	4	平成十五年度事業報告・会計報告……………	24
校友を訪ねて 佐々木忠次氏インタビュー……………	鈴木 貞夫	6	平成十六年度事業計画・会計予算……………	25
追悼と弥栄……………	鈴木 貞夫	10	会費納入者一覧……………	26
同期の輪……………	山口 彰	13	本郷学園同窓会会則……………	30
ラグビー花園応援顛末記……………	関口 彰	16	物故者……………	32
学園だより……………	田中 良一	18	文化祭に同窓会サロン・編集後記……………	33
文化祭報告……………	田中 良一	20		

## ご挨拶



同窓会会長 やまのうち 山内 英夫 (高三回)

このたび村松前会長の後を継ぎ、同窓会会長の大役をお引受することとなりました山内です。村松前会長は、就任以来同窓会の活性化、運営の透明化に努力され大きな成果を挙げられました。また

ずもって、そのご努力に対し深く感謝する次第です。

さて、私は敗戦の年昭和20年に旧制の中学に入学し、中学3年の年、6・3・3・3の導入による学制改革により新制中学1回生、新制高校3回生という形で本郷の学業を終えました。即ち旧制中学と新制高校をほぼ半分以上ずつ経験したことになります。

これまで同窓会長は旧制中学卒業の方にお願ひしてき

を務めることとなると自らの役割を考えています。次の世代に引き継ぐために、これからの同窓会活動に新制世代の方が積極的に参加されることを心から願っております。

昨年母校は、卒業生の北島康介君の平泳ぎ世界新記録樹立や、ラグビー部の10年ぶりの花園出場で大いに盛り上がりました。最近では入学生の質も向上し有名大学への進学状況も向上しているようでありますが、私立学校をめぐる環境は、小字化の影響に加え、公立学校の進学校化(学区制の廃止・中高一貫教育校の新設など)により厳しさを増してきております。

質のよい生徒を必要数確保することがこれからの母校の存続にかかわる問題であり、身近にいる優秀な児童に母校を推薦するということは、長い目で見て母校の名を

高めることにつながることであります。この面での会員の皆さんのご協力を、まずもってお願いいたしておきたいと思えます。

同窓会活動活性化のためには、多感の時期にともに触れ合った同期の仲間、同クラスの仲間との交流が出发点になるとの考えから、同窓会としてここ数年同期会・クラス会の開催を側面的に援助してきましたが、今年は一歩進め学園文化祭にあわせ学園近くに同窓会サロンを開設することとしました。

文化祭同窓会ブースにお立ち寄りの上サロンを利用して同窓生相互のふれあいの場、会合のための打ち合わせの場として利用してもらえればと考えてのことです。多くの方の利用を期待しております。

同窓会の財政基盤も関係者のご努力により逐次改善されつつありますが、私も運営の透明化を保ちつつ、組織の基盤強化と活動の活性化にこれから微力を尽くしてい

く所存です。  
同窓会がより充実したものとなるよう、どうか、会員の皆さんの一層のご支援ご協力をお寄せください。この点重ねてお願いし私の挨拶といたします。



## ご挨拶

本郷学園 理事長 松平頼武



同窓会の皆様には、日頃、本郷学園のためにご指導、ご支援を賜り誠に有り難うございます。

今年も学校は、4月には新入学生、中学は249名、高校は本郷中学から204名、他の中学から82名の計286名が入り、総生徒数は1635名でスタートし、活気にあふれております。

高橋雄校長先生は在職3年目に入り、種々の学校改革も軌道に乗って動き出しており、大学進学も上向きで、学外の学校に対する評価も上がってきています。

昨年度は、ラグビー部が花園の全国大会に10年ぶりに出場し、その他水泳、陸上、漕艇、剣道が国体で活躍するなどが有りました。そして、卒業生の北島選手の水泳

での世界新記録で学内は盛り上がりました。生徒達は、学業、スポーツ、文化部活動と活気のある、充実した楽しい学校生活を送っているようです。先生方も生徒指導に熱が入っている状況です。高校卒業生には、毎年卒業式で後輩との交流、指導を卒業しても続けて頂くようお願いしております。同窓会でもこの点よろしくご指導頂ければ幸いです。

同窓会におかれましては、村松会長が交代されると伺いました。ご在任中、学校のためにもいろいろご指導、ご支援を頂きほんとうに有り難うございました。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

同窓会のますますのご発展をお祈りいたします。

## 本郷の先生たち 第三回

### 板倉勝高先生

平田満男(高七回)



板倉勝高先生  
1955年卒業アルバムより

板倉勝なんとかという名前なのだから、いずれば京都所司代をつとめた幕府の重臣・板倉重あたりの血筋をひくご身分なのだろうと思うのだが、まじめにそんなことをたずねてみても、先生は、

「いや、零落をしましてな」

と多くをかたらず、カンラカラカラと高笑いをするだけ。暑い季節になると、倉からだしてきたという古めかしい鉄扇のようなもので風をいれて、職員室で涼をとっている。どこからみても本物のお殿様が、徳川宗敬先生や松平頼明先生のようにすこし離れた雲の上ではなく、汚い教室のすぐ目の前にいて地理や世界史を教えてくれるのだから、さすがに本郷高校はたいしたものだと、ぼくたちは素直に感動した。

昔の本郷には、「先生の家にあそびに行く」ということがあった。どこの家にも電話があ

るとい時代ではないから、日曜日に生徒がとつぜん押しかけていったりして、先生たちにとつては大変な迷惑ではなかったかと、今になっては思うのだが、それでもいやな顔もせずに蔵書をみせて頂けたり、学校では聞けないような話が聞けたりするのが楽しかった。その頃の本郷には、学校にふさわしい「文化」があったのである。

たしか「いちど遊びにきなさい。本をみせてあげるから」と、お声がかかって品川御殿山の板倉邸にうかがったのは、もう卒業も近いころだった。ひろい敷地の正面の本館にはご令兄の一家が住んでいるとのこと、先生はすこし荒れた感じの庭をへだてた平屋の離れに一人で暮らしていた。一人といっても、一人ではない。やや年をとった品のいいお女中さんが、つききりでご用をうけたまわっている。

本郷学園には代々の松平先生のほかにも、れつきとしたお殿様の末裔が一人いて、高校で社会学を教えていたことがある。それが板倉勝高先生で、先生がぼくたちのような下々の家を出ないということは、昭和三十年の高校卒業アルバム、この写真を見ただけでもわかるだろう。誰がどうみても、これはまぎれもなくお殿様の顔である。

その頃ぼくは、植竹恒男先生のお宅から借り出した新潮社世界文学全集のブルースト『失われた時を求めて』を読んでいたのだが、板倉先生に言わせると、

「植竹君のところの本は、だめだ。あれでは蔵書とはいえない」

とのことで、三間くらいある押入をあけると上下の段に本がぎっしりつまっている。そのほとんどが全集もの、あるいは先生が端本を集めて全集にしている揃い本で、スターリン全集からニーチェ、キエルケゴール、バルト神学、森鷗外から横光利一、岡本かの子、中島敦、梶井基次郎、そしてバルザック、トルストイ、ドストエフスキー、トーマス・マンなどなど、どういう基準かは知るよしもないが、先生が、

「これは、読んでおくべきだ」

と信じて集めた本がそこにあった。しかも、これは先生の専攻分野の経済地理学の文献とは、なんの関わりもない蔵書なのである。

本の収集でも高校の授業でも同じことで、

先生は常に本格をめざし、王道をあるくことの大切さを、ぼくたちに教えようとしていた。同学年の秋元幹夫君が御殿山の板倉邸に参上したときは、談たまたま音楽におよぶところとなり、先生は

「とにかく音楽はモーツアルトだ。モーツアルトが第一だ」

と力説したという。いまでも、スナックのカラオケでマイクを握りしめては、

「ホーシの流れに、ミオーを占つて」

と歌って、涙をながさんばかりの秋元にモーツアルトのすばらしさを説いたところで仕方のないようなものなのだが、そこが板倉先生の本格派たるゆえんなので、秋元もこんな先生にクラス担任をしてもらったことを、分りすぎた好運だったと感謝していることだろう。

学生時代の先生が東北大学経済学部在籍をおきながら、理学部の地理学教室に机を置いて、経済地理学という今でいう学際分野の研究をしていたことなど、ぼくたちは知るよし

もなかった。居間の欄間に糸がはってあり、そこに料亭や旅館のマッチがずらりと並んでいて、先生はそのラベルをみながら、

「ここで、鯉の茶漬を食べたのだが」

というような講釈をするのだが、それがお殿様の贅沢ばなしではなくて、専門の地場産業の研究につながる話題なのだということなど、ぼくのような弟子にはまったくわからなかった。それでも、さりげなくそんな話をしてくれる板倉先生は、ぼくたちにとっては、まぎれもなく「本郷の先生」だったのである。

その後の先生は信州大学をへて、研究分野とつながりのふかい流通経済大学に迎えられ、さらには、東北大学の人文地理学講座の教授として出身校にもどられることになる。高校時代に尊敬していた先生と、思いがけないめぐりあわせで同じ大学で教える身となり、ときおり外国語の文献を読むお手伝いなどができたことを、ぼくは教師冥利につきる幸せだったと思っっている。

## 校友を訪ねて

# 佐々木忠次氏（高校3回生）インタビュー



今回は、バレエ演劇プロデューサーとして世界的に活躍されている東京バレエ団代表佐々木さんを訪ねていろいろとお話を聞く事ができました。同期である山内副会長に連絡をとっていただき11月24日に訪問が実現しました。

略歴

昭和8年（1933）文京区に生まれる  
本郷学園高校昭和26年3月（高3回）卒業  
日本大学芸術学部に進学  
昭和39年（1964）にチャイコフスキー記念東京バレエ団を設立

東京バレエ団代表・総監督 オペラ、バレエ、演劇などさまざまな分野の舞台芸術において、舞台監督と制作プロデューサーをつとめる。財団法人日本舞台芸術振興会専務理事。

田中 早速ですが、佐々木さんがバレエ界に進まれたきっかけは、どのような事からですか・

佐々木 この業界に進んだきっかけというのは、特にないんです。自然に、という言い方が一番あっていますね。

僕は男5人、女1人の6人兄弟でその2番目です。親父は事業家、お袋は伊達家の末裔だったらしい。そのお袋が歌舞伎に行ったり、劇を見たりというのが大好きでした。それで当時、よく歌舞伎に連れて行かれましたね。ところが長男と三男はすぐに、飽

きてしまうんです。でも僕だけは、お袋が帰ろうと言っても帰りがらない。だからその頃から、この世界が好きだったんでしょうね。

田中 本郷学園在学当時のエピソードをお聞かせ下さい。

佐々木 本郷での日々、演劇部を立ち上げました。

昭和20年（1945）、終戦の年ですね。疎開先の真鶴から戻り、本郷中学校に入りました。その頃は本郷学園周辺もまだ焼け野原でね。ちよつと今からは想像もできないような状況でした。入学してみると音楽部というのがあって、その部長が古流松藤会家元の息子さんでした。その方も演劇が好きでよく劇場に行っていて、そのたびに私も連れて行ってもらってました。あの頃は、

演劇の練習も公演も、講堂ではなくて一階の教室でやりました。工場の事務所にあったカーテンを外して持ってきて、それを緞帳代わりに使っていたのを覚えていますよ。ところが音楽部は、僕が中学2年のときになくなっちゃった。それで、高校1年の時に自分で演劇部を作ったんです。講堂で大きな芝居をやりましたね。演目はシェイクスピアの「ベニスの商人」とかだったかなあ。当時はまだ物資も不足していて、講堂の壁の窓をベニヤ板でふさいで暗くしていました。でも見た目がよくない。それでちょうど、日本橋の三越で、戦後初のファッションショーをやっていたのに目を付けました。そのファッションショーのために三越の上から下まで桜の造花が飾ってあって、「終わったらどうするのか」って聞くと、「くず屋が来てみな持っていく」と言うんです。それじゃあ我々がトラックで全部持って行くというように交渉しまして、できるだけ本郷に運びました。その造



花を3階の講堂の周りにザット貼り付けた。いい思い出ですね。

あと男子校ですから、男ばかりでろくな芝居ができない。それで巣鴨にある女学校に行って交渉をした、なんてこともありましたが。でも学校の許可が出ないから「共演はできません」って断られてしまっただけ。その時に交渉相手だったのが、今は女優をしている池内淳子さんでした。

田中 オペラとの出会いは、どのような経緯でしたのでしょうか・

佐々木 オペラとは「偶然の出会い」です。日本大学芸術学部に進んだ時だけは、父親が反対しました。「大学は一生を決めるのに、芝居ばかりやっていると、それを「好きなようにやらせるのが人間一番いい」と賛成してくれたのがお袋でした。今思うと確かにそう。好きなことをやるのが一番いいんです。ちなみに卒論は、大正時代のオペレッタから戦後のミュージカルへの移行について。この頃こういう劇団ができたとか、そんな年表を作りました。その裏付けをするために宝塚まで出向いた

り、榎本健一さんにも会って、間違いがな  
いか随分と聞きましたよ。

それで最初に就職したのは音楽事務所。初  
任給は「月3万円より」と言われたのです  
が、何より魅力的だったのは「朝10時から」  
という点。僕、低血圧で朝が弱いんです。  
ところがそこが1年後に倒産してしまっ  
た。ちょうどその頃、NHKがイタリアオ  
ペラを招聘するという話がありまして、そ  
の舞台を手伝って欲しくないかと言われ、そ  
れがオペラとの偶然の出会いですね。

田中 バレエ団の設立のきっかけをお話し下  
さい。

佐々木 条件は「プロのバレエ団を作ること」  
それから縁というのは不思議なもので、  
創立間もない東京バレエ学校に関わること  
になりました。ところがこれも、放漫経営  
ですぐに倒産してしまっただけです。そうし  
たら生徒の親から僕のところに来て来て  
「学校を再建してくれ」という。1960  
年代前半、ちょうど30歳の時のことです。

僕が出した条件は「学校には興味がないが、  
プロのバレエ団を作るのなら」ということ  
でした。中途半端にはしたくないですから。  
それから40年間、ヨーロッパだけで、公演  
回数は600回を超えました。世界的なオ  
ペラハウスで出ていないところは1つもな  
いんです。

1986年には、世界的振付師モーリス・  
ベジャールが「ザ・カプキ」というのを作っ  
てくれました。これが世界中で評判になり  
まして、当時パリのオペラ座は外国人には  
舞台を踏ませないと言っていたのですが、  
うちはそこでの公演も成功させました。

田中 佐々木さんが手がけた大きなイベント  
についてお話し下さい。

篠 苦勞談などあればお願いします。

佐々木 引越し公演の苦勞、条件はコック  
同伴

引越し公演というのはなかなか大変で  
ね。ミラノのスカラ座を初めて呼んだのは  
1981年でした。その交渉に16年間もか

かった。16年間ミラノに通ったんですよ。  
初めて交渉に言った時、イタリア人は「日  
本は蝶々夫人の国だ」ぐらいにしか思っ  
ていないわけ。だから話し合いで一番重要  
だったことは、イタリアのコックを連れて  
行くこと。イタリア料理が作れるキッチン  
があるかどうか、お米やパスタがあるかど  
うか、ワインを大量に持っていけるかど  
うかなんてことも言ってくる。結局、600  
人がやって来たんですが、皆腰を抜かした。

ミラノより日本の方が進んでいるんじゃないかと。肝心の中身についても、うちが呼  
んで日本でやるような公演は、向こうで見  
るものよりも上等なんです。彼らは国威を  
かけて、最高のメンバーを連れて来るん  
です。

オペラは予備知識があった方がいい、とい  
うのは確かです。でもこれは食べ物と一緒  
で、初めて見てはまる人もいるし、予備知  
識があってもダメという人もいます。予備知  
識がなくても最近はず幕がつかますしね。

あとテレビで見るとはダメですね。映像  
になると違ってしまふ。だから、1人でも  
多くの人に劇場に足を運んでほしいと僕は  
思っているんです。

山内 佐々木さん、新国立劇場の設立エビ  
ソードを話してくれないか。

田中 それから「佐々木忠次vs遠山一行」論  
争についてお聞かせ願いますか。  
ホームページにも少し、掲載されています  
ね。

佐々木 新国立劇場に直言、ソフトはどうす  
る？

外国のオペラハウスでは、多いところだと  
2千人もの関係者が働いているんですよ。  
建物はどうにでもなる。それよりもソフト  
はどうするのが問題だと思っています。  
合唱団、オーケストラ、バレエ団……。そ  
れなのに新国立劇場の場合、国はどういう  
ふうに見るのかがつりなりの。外国の例  
を見ると国家公務員にして、年金から何  
らか国が出資しているのです。

例えばミラノのスカラ座には1千人以上ス  
タッフいます。それで事務局は20数人。と  
ころがですよ。新国立劇場は年間管理費だ  
けで60億。それでオーケストラもいないの  
に1600人もの公務員が働いているんです  
よ。ソフトをはっきりさせないうちに建物  
を建てるのは反対だと言っているんです。  
家を建てるにも、誰が住むか決めてから建  
てるわけ。夫婦2人だったらマンションで  
済むけど、祖父母と子どもがいたら、郊外  
に一戸建てを建てることとなるでしょう。今の  
新国立劇場は、建物さえあれば何とかなる  
というのだから、月給30万円の人間が3億  
円のマンションをローンを組んで買うよう  
なモノじゃないかな。

田中 お時間もだいぶ過ぎてしまいました。  
最後に館内を見学させて下さい。

中略

2時間を予定していた対談も3時間以上  
なり、原稿に記載しなかった内容もありま  
す。ご容赦下さい。

佐々木さんこれからもお元気で活躍下さ  
い。

著書紹介

「闘うバレエ」素顔のスターとカンパニーの  
物語／新書館

「だからオペラは面白い」舞台裏の本当の話  
／世界文化社

「オペラ・チケットの値段」／講談社

訪問者

山内副会長（高3回）

篠副会長（高6回）、

寺田副会長カメラ担当（高24回）

田中副会長司会担当（高24回）

編集協力

太田匡彦さん（編集部記者・高40回）

# 追悼と弥栄

いやさかえ

鈴木貞夫(中8回)

我々の本中生時代の校長は、松平頼寿さんだった。四国高松、徳川親藩のお殿様で、水戸光圀の後裔に当る。当時「伯爵」で、「貴族院副議長」をしておられた。因に議長は近衛文麿だった。

紀元節、天長節、明治節など、学校での式典の折、講堂での演壇に登られ、厳重な声で「唯今末、宮中より戻りました。陛下にはご機嫌うるわしくあらせられました。」と、淡々と併し重々しく挨拶されたのを、なつかしく想い出す。

日常、松平校長に代って、学校を取り仕切っていたのは、教頭の永井道明さんだった。「デスマーク体操」を日本へ紹介した草分けの人である。この人がおられたので、本中は「教練」と「体操」だけで有名になり、「進学」のことは忘れられて了ったと申しても、過言では

ない。当時、軍事教練の査閲のため、毎年一回、陸軍の大佐、中佐クラスの人が来ていたのだが、私の四年生の時だったか、特別にわが本中が選ばれて、朝香中将官が査閲官として来られ、その名誉の大きさに、大さわざしたものだ。

サッカーは校庭も広いするので、我々の頃は盛んだった。併し全国大会なんて、全然お呼びではなかった。第三十一号「銀友」で承知したが、昭和四十年代、五十年代と全国的にも活躍していたことを、初めて知った次第である。

ラグビーは我々は全然やらなかった。その後、新聞紙上で活躍ぶりを知り、大学の対抗試合でも、選手の名前のあとに、出身校として「本郷」の名前を見て、嬉しかった覚えがある。明治や早稲田の選手に多かったよう

だった。

併しサッカーも、ラグビーも、最近新聞紙上に「本郷」の名前を見ることなく、甚だ寂しく思っていた。それだけに、本年ラグビー部が花園出場をはたし大活躍したことは大変喜しいことである。

望むらくは「運動」も「進学」も両方共、所謂「文武両道」であって欲しいと、念願すること切である。ところで、我々旧制本中八回生は、在校中かなり「やんちゃぶり」を發揮して、担任の先生方を困らせたものだったが、その代り我々の前後数年間を通じて、国公立への合格者は抜群だった筈である。ここは私の記憶にある合格者を紹介し「銀友」誌上に記憶として残して頂きたいと思う。亡くなった友へは「追悼」としてご冥福を祈り、かつ又、生存する友へは一層の「弥栄」を祈っ

て。

まず四年修了の合格者では、

■木名瀬清春、東京商大(現、一橋大)予科に合格、新聞部で活躍、ことごとくに体育部と張合っていた。茨城弁が抜けないで、時折可愛らしい印象を残していた。卒業後三菱商事に入社、昭和五十七年九月病気で死去した。

■谷内研太郎、七年制高校(たしか東京高校)に合格、東北大学金属工学科に進み「ハガネ」で有名な本田博士の指導を受け、その後陸軍技術将校になった。戦後財団法人本田記念会事務局長になられたとは聞いていたが、その後の近況不明。

次に五年卒、所謂現役組では、

■鈴木繁雄、浦和高校文丙から東大法学部に進み、卒業と同時に海軍予備学生となり、飛行機乗りとなって、昭和二十年四月、東京湾沖にて戦死。彼が三重航空隊にいる時「会いたい」との手紙を貰い、名古屋にて落ち合い海軍将校の正装をした彼と一日会食し、話し

合った想い出がある。又、彼が浦高の三年生、

私が商大予科の二年生の時、彼の家を訪ねてだべっていた時、話がたまたま「フランス哲学」のこととなり、彼が原書を持ち出して、しゃべり出したのに、少々圧倒された思いがしたことがある。原書でじっくり読んだ方が、語学の勉強になり、かつ内容の理解にも役立つのだと言っていた。

なお彼のことは、平成十一年に刊行された中公文庫 蝦名賢造氏の「海軍予備学生」と浦高のクラスメイトとして、かなりくわしく書かれている。

■花又孝一、ほがらかな外交的性格で、体操も得意で、正に文武両道の達人だった。東

京外語のポルトガル語に合格、東洋タイアの社員として、世界を股にタイアのセールスに飛び廻り、そのためのパスポートが五十数冊になったそうである。東洋タイアの役員にもなった。その後、我々同期の会の幹事長として頑張って呉れたが、平成十年病気のため死去。

次は一浪組だが、

■まず小生、鈴木貞夫、四年生、五年生と海軍兵学校を狙ったが、あえなく不合格。視力不足にて海兵を諦め、一浪して海軍経理学校を受け、最後まで残ったがやはり不合格。あ

わてで東京商大予科に転向、これには首尾良く合格。卒業後体調をくずして兵役はまぬがれ、東芝機械に入社、戦後営業課長、原価課長など歴任したが、家庭の都合で退社。唯

# 同期の輪

## 中十七回同期会「染桜会」

「旧染井能楽堂を横浜に訪ねて」旧制十七回（昭和十九年卒）同期会

私達のクラス会は、春は日帰り、秋は一泊というのが定例となりました。今回の第八回クラス会は三月十七日、参加者二十六名で、往年本郷中学校と隣り合わせの松平邸内にあった染井能楽堂が、平成八年新しく建てられた横浜能楽堂の舞台に見事に復元されたのに面会するのを楽しみにしての企画でした。ゆっくり館内を見学出来る公演の無い日を選んで申し込みました。説明された塩野氏には私たちの目的を説明しておいたので、一時間以上もたっぷり且つ懇切丁寧な説明を頂きました。真新しい館内に百数十年を経て復元された重要文化財の染井能舞台は今でも品の良い且つ重厚な存在感がありました。記念写真撮影後、館を辞し、紅葉坂を下り「みなとみらい21」のワールドポーターズで昼食、水上バスで港をぐるりと回って、昔はメリケン波止場と云った「大栈橋」に上陸「憧れのハワイ航路」の気分を味わった所で、いったん解散。希望者で中華街へ。幹事行き付けの広東料理店「頂好」（ティンハオ）で会食。割合に甘口で日本人向き。味も分量も老酒も結構、又勘定もリーズナブルと、皆さん喜んで頂きました。帰途は搾菜（ザーツアイ）・皮蛋・肉饅等土産に買い家路に。次回第九回は湯河原で十一月二十八日（日）〜一泊二十九日（月）に決まりましたので諸兄の参加を待っています。

高野 正美 記



今大和自動車交通に入社、役員を経て現在に至っている。

■山中隆二、東京外語フランス語科に合格、その後の経緯については不詳。体調をくずすから長いことになる。

最後に二浪だが、

■岡本信一郎、この男は秀才なのに入試に弱い。なにしろ一浪して四中（今の戸山高校）の補習科にいた時、四年生以上の模擬試験に四中始まって以来と言われる抜群の成績でトップにたちながら、その年の一高受験に失敗している。一高ではクラス委員などしていたのに、東大受験の折も一浪している。

まあそんな経過はたどったものの、無事一高理甲に合格、東大工学部機械学科に進み、卒業後海軍技術将校となり、追浜の海軍航空技術廠にいたが、戦後は電機大教授となった。

昭和五十五年、肺癌でなくなった。

彼の家に夏目漱石全集があり、その殆んどを借りて読んだ覚えがある。そして又、彼か

らの手紙の文章が、なんとなく「漱石風」だったことが、なつかしく思い出される。

私にとっては前記鈴木繁雄と並べて「今生きていたらなあ」と想い出すたび、嘆息が出る友人なのである。

■野口俊夫、父上の転勤などで四国香川県の高松高等商業に入った。当初一橋志望で四年生から一浪まで、三年間受け続けたが駄目だった。私が海軍志望から一橋へ転向した際種々アドヴァイスして呉れた良い男だった。

運が悪く兵隊にとられ、少尉は任官せぬまま、ビルマで戦死していった。

■湯原豁、浜松高等工業電氣学科に合格、中学時代からサッカーに熱中、漢詩もお得意。

陸軍技術将校となるも、戦後通産省に入り原子力発電に関係し、ロンドン大学に留学。帰国して原発の初期に当り随分と活躍した。

その後東海大学工学部教授となり、又、「詩人」としても有名。彼の学問、人生論の基底には、マルクス、エンゲルスの唯物史観弁証法がある。現今、お互い思い出すと電話して

なにかをだべっている。又、時としては打合せて落合い、映画を見、そばを食い、一杯やりながらだべるのを楽しみにしている。私から刺激を受けることも、たまにあるらしく、関連して新聞の切り抜きや、彼の小論文などをドカッと送って来る。仲々こまめである。生存するクラスメイトとしては、唯一の親友と言ふべきか。

「追記」最近の「銀友」など拝見して、官立大学への進学者が、我々の頃とは比較にならない程多くなっていることを知り、誇らしく思っているが、我々の当時の実情も知って頂きたく、私の承知している限りの、クラスメイトの優秀な連中をご紹介した。当時と現在と余りに、かけはだててはいるが、我々の頃は早慶明立法などには、中堅クラスの同級生が軽く入学していた。

なににしても、母校の現状に喝采を送り、今後の榮譽にエールを送る。

以上

## 高三同期会「染井二六会」

還暦をさらに一廻り重ねた今年の同期会は平成十六年四月二十一日（水）に新宿栄寿司西口店で開催した。

幹事山口君から本日の出席者十五名と欠席者のメモが配られた後、村西信雄、篤硯男両君が他界されたことが報告された。

続いて今年同窓会会長に就任した山内君から本郷学園の近況について、大学進学状況、スポーツ関係両面での活躍ぶりが紹介され、一同大いに意を強くし、母校の発展を喜びあった。

乾杯に続き宴会に入り懐かしい青春時代の話しに花をさかせ、最近の健康状況等々話しは尽きず楽しい一時を過ごし、本年の同期会での再会を誓い合い散会した。

大槻 一雄 記



## 高六同期会

今年の夏は、全国的に冷夏となり、9月に入ると夏場のような残暑にみまわれ、本当に不順な日々でしたが、暑さも寒さも彼岸までの通り同期会を開く頃には、やっと落着いた日和りとなった。好天に恵まれた平成十五年9月27日（土）に母校本郷の文化祭に合せて、三菱養和会の二階、パルティールにて、林英夫先生を招き、24名の参加者を迎えて、和気あいあいの同期会を開催した。今回は、初参加の今なを薬剤師の仕事をしている、大西美智代君と、学友漆間秀雄君の再三の誘いで参加した蔵田尚君、さらにジャズマンとして現役で活躍中のリチャード・パイこと松本易夫君等が加わり、例年通り司会は、松坂幹事の挨拶と、乾杯を仲間内で一番声の大きい丸橋君の音頭で始まりました。30分もたつと座席が入り乱れ時間の経過と共に「本中ツンツン節」が始まり終りの30番迄合唱し、続いて校歌一番目の合唱後、来年も又、お互いに

元気な顔を見せようとの、丸橋君のエールに依る縮めて散会となった。尚、来年は、高卒後50年の節目に当ることで大勢の参加を歓迎したい。

篠 喜三郎 記



## 高二十一回クラス会

昭和44年本郷高校を卒業した3年4組の仲間が、卒業後初めて、平成15年12月3日駒込の【和民】に12名が集いました。

30数年來の再会で学生時代の面影を残す者、全く変わって名前のうかばない者と様々ですが時間の経過とともに気分は学生時代に逆戻り二次会、三次会と夜の更けるのも忘れ欲談し次回の再会を約束して家路に着きました。

追、平成16年4月14日2回目の集まりを行い、『年に1度は集まろう』と決まり3回目を11月に行う予定です。連絡の取れない仲間も銀友を観たら一報下さい。

中田 守喜 記



## ラグビー花園応援末記

応援団長 関 口 彰 (本郷高校教諭)

本学園に四十二年間教鞭をとられた板垣勝夫先生が退職された。終了式での生徒への別れの挨拶の中に、先生は今回のラグビー部の花園出場の話しをされた。三年のラグビー部員を高一の時に教えられたことがあって、彼等と廊下などですれちがうたびに、「先生、今年こそは花園に連れて行くから」と言われていたそうである。が、昨年は準決勝で敗退し、今年退職の年にあたり、それが叶うかどうか、実は半信半疑の気持でいたところ、見事それを実現させてくれて、これ以上の退職へのはなむけはなかったとのことでした。

この半信半疑の気持は、先生ならずとも大多数の先生、本郷に関わる者なら誰しもが抱く感情であったろう。十年前までは本郷高校の看板スポーツとして、正月の花園出場は出るべくして出ていた観があったから、当時としては感激も徐々に薄れていたかもしれない

が、それが久々の十年ぶりの都大会優勝、全国大会出場となると沸きかえらないはずはなかった。

私は立場上、応援団長として十二月早々に応援委員会を七人の先生方と組織して準備に入った。当初は過去の応援形態の踏襲が考えられたが、十年の歳月はいろいろな面でズレが生じて対応の難しさがあった。

まず生徒父兄からの応援寄附はやめて、一人でも多くの生徒応援にすべく、二度の調査の結果、当初の予想をはるかに上回って、バス七台で花園に乗り込むことになった。

それに前回は中学生のバス応援を深夜運行の強行軍ゆえ認めなかった経緯があったが、今回は高校生より中学生の応援希望者が上回っていることもあり、それを認めた。となると一番の心配は、体調不良を訴える生徒が出た場合の対処についてであった。深夜ゆえにどう対応すべきかという問題。バスには必ず二名の教員がついて、旅行者者にも添乗してもらい、大阪に設置した本部との連携を

密にとりながら対応するということで決着した。また朝花園にバスが到着した際に、午後の試合までどうやって時間をつぶすかも苦慮したが、今回は全員で開会式に臨み、他校の試合も見てから、本校の試合の応援をさせた方が盛り上がりを見せるのではないかとということで変更した。

一回戦が始まった。本郷の対戦校は島根県の「江の川高校」であった。事情通の先生方の話しでは、島根は県大会では出場校が三校しかなく、二試合で花園出場が決まるような相手ゆえ、問題なく突破出来るだろう、という見方と、大阪の第四代表に相当するほど関西の良い選手を集めてチームを作っているから、実力は本郷より上だ、とする見方があった。予想は相半ばした。結果は前半本郷が押しに押ししてリードし、後半は逆転されて、完全に負けたと誰しもが思った終り一分前、清水がうまく抜け出して60メートルの独走トライを決め、再逆転で勝利した。バンザイを繰



有利な組み合わせはないといったくじでね。それに今回都大会決勝で大東文化さんと同点優勝した時も、ウチは今までクジ運がないから、おそらく駄目だろうと思うところがあった。ところがキャプテンの清水を抽選会にやったら、二度とも簡単に当りクジを引き当ててしまった。何か古庄の力が働いていたとしか……。」

あと一言葉が詰まって話しにならなかった。二回戦は伏見工業との対戦だった。伏見の前監督山口良治さんは、NHKのプロジェクトXで「泣き虫先生」で何度も放送され、今やスポーツ界の有名人になっているが、本郷

り返す教師もいれば、顔中くちやくちやにして涙を流している父母や生徒。誰彼となく握手して喜び合う光景があちこちで見られ、奇跡の勝利は興奮の坩堝と化していた。そして何よりも感動的だったのは、その後、大浦監督を祝福しようと練習グラウンドに行くと、「こんな勝ち方は、自分の長い監督生活に一度だってなかった奇跡的な勝利ですよ……」涙をうるませながら語り、私にそっと背広の内ポケットのあたりを開いて見せた。するとそこには喪章のリボンが着けられていた。「選手皆なのジャージの内側にも古庄への気持を忘れずに、これをつけて試合に臨ませてくださいよ」

都大会準優勝の直前に亡くなったラグビー部員の古庄智也君の霊を慰めようとの部員23人の熱い思いの現れが勝利を呼びこんだのかもしれない。そして大浦先生は私に次のような驚くべき話しをしてくれた。

「今回の都大会の組み合わせ抽選のくじを引いたのも古庄だった。ウチにとつてこれ以上

ラグビー部とは格別縁が深かった。大浦先生とは以前から花園出場の際には、必ず本郷宿舎吉野旅館にやって来ては、部員生徒を激励し、話して熱が入ると生徒を泣かせ、ご自身も涙を浮かべて熱弁をふるわれるのが恒例であった。私もだいたい以前、山口さんが本郷に来られて、中庭で挨拶したのを覚えている。さて試合は、気迫では本郷は負けてはいなかった。開始早々にトライして5点リード。その後伏見にT Gで7点取られ逆転されたが、すぐさま反撃してP Gで3点を返して逆転するとう、予想以上の気合のこもった試合展開が前半見られた。が、徐々に地力の差が出てきて、前半は28対8、後半はすぐにトライしてゴールも成功。28対15と追い上げたが、力に勝る伏見にその後2トライを許し、40対15で破れた。

しかしこの二試合、応援団長として旗を振りながら、伝統の本郷魂健在なり、を強くアピールした見事な東京代表であったと誇らしくも感じた次第である。

# 学園だより

## ■平成十六年度入試結果

国公立大学は、北海道大学(二)、東北大学(二)、東京大学(二)、東京工業大学(四)、一橋大学(二)、電気通信大学(八)、東京都立大学(二)など、延べ五十名であり、昨年度から十増である。

私立大学は全体で六百七十九名であり、昨年度より約二割の増加である。早慶上智理科大については、早稲田大学(三十五)、慶応大学(十五)、上智大学(二十四)、理科大学(三十三)で延べ百九名と昨年度を少し下回った。いわゆるMARCHE+Gについては、明治大学(四十一)、青山学院大学(十八)、立教大学(二十五)、中央大学(二十六)、法政大学(三十)、学習院大学(十五)で延べ百五十五校と昨年度を少し下回った。

■指定校推薦大学は、青山学院大学(経済・理工)、学習院大学(法)、慶應義塾大学(理工)、中央大学(法・商)、東京理科大学(理)、明治大学(理工)、早稲田大学(理工、商)その他合計三十二校合格

## ■国公立大学合格者五十名

北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、一橋大学、電気通信大学、東京都立大学その他

## ■私立大学合格者六百七十九名

青山学院大学、学習院大学、北里大学、慶應義塾大学、上智大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、明治大学、立教大学、法政大学、早稲田大学その他  
なお、合格者が重複しているが、その他多数となっている。

## ■平成十五年度(二〇〇三年度)

### クラブ活動状況

ラグビー部 新人大会ベスト十六、春季大会

(インターハイ都予選) 準優勝、関東大会

出場、全国大会都予選 優勝 花園出場

サッカー部 新人戦 地区三回戦、インターハイ都予選支部二回戦、全国大会都予選

地区二位

### 陸上競技部

インターハイ予選都大会 総合

三位、百m二百m一位(正川) 三段跳

一位、四×百mR一位(佐々木、原、辻、

正川)、関東大会 総合三位、百m二百

m二位(正川)、走高跳三段跳一位(角

山)、四×百mR七位 四×四百mR七

位、インターハイ 日本ジュニア 日本選

手権リレー団体出場

ボート部 インターハイ都予選シングルスカ

ル優勝、ダブルスカル二位、団体都予選、

シングルスカル優勝 ダブルスカル二位、

関東大会出場、シングルスカル優勝 ダブ

### ボウリング部

健康・体力づくり運動推進全

国大会出場、全国高校対抗選手権出場、オ

ル関東ジュニア選手権大会出場

### 山岳部

瑞牆山・金峰山(五月)

### 日本文化部

(老人ホーム) 山吹の里演奏会

二回、文化祭演奏、高校文化連盟中央大会

出場、筑紫会定期演奏会

### 囲碁将棋同好会

高校囲碁選手権都大会参加

(B級四位)、東京都高校文化祭囲碁大会参

加、将棋高校竜王戦参加(個人都ベスト八)、

将棋新人戦高校関東大会参加、本校文化祭

参加

### 大会出場

バスケットボール部 春季大会兼関東大会都

予選三回戦、全国大会都予選三回戦

硬式テニス部 都大会団体二回戦、都大会個

人五回戦(シングルス)一回戦(ダブルス)、

都大会新人三回戦(シングルス)本戦一回

戦(ダブルス)

卓球部 インターハイ都予選出場、関東大会

都予選出場

硬式野球部 夏季全国大会都予選一回戦、秋

季大会都予選一回戦

フエンスング部 関東大会出場

バレーボール部 インターハイ都予選会、一

次リーグ一位、都高校新人大会出場、都

私立高校選手権大会出場、関東大会予選

会、一次リーグ一位

器械体操部 文化祭 アトラクション参加

バドミントン部 インターハイ予選都大会

(個人)、男子ダブルス二回戦、インターハ

イ予選都大会(団体)、Aブロック予選二

回戦

ルスカル、国体関東ブロック大会、シングルスカル二位、インターハイ、準々決勝進出(シングルスカル)、国体、準決勝進出(シングルスカル)、全日本新人戦出場  
剣道部 都春季大会兼関東予選 個人優勝(岡田)、第五十回関東大会 個人ベスト八(岡田)、インターハイ都予選 団体二位、個人 優勝(岡田)三位(大垣)、インターハイ 個人 岡田出場、国体関東ブロック二位(次鋒 大垣 大将 岡田)

水泳部 春季大会総合三位、都大会総合三位、関東大会総合六位、インターハイ総合十一位、新人大会総合三位、国体出場

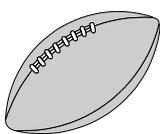
スキー部 顧問 佐々木隆多・近藤正和

ノルディック 関東・全国大会出場、ノルディック 国体 全国選抜大会出場

柔道部 都学年別支部大会(ベスト十二(都大会出場)、高校柔道選手権支部大会(ベスト

十六、インターハイ支部予選(団体) ベスト十六(個人) 百kg級沖原正章(ベスト十二

(都大会出場)、九十kg級東楽(ベスト十二(都



## 文化祭報告

田中良一（高24回）

平成15年本郷学園も創立80周年、文化祭もそれだけあったのかな…

同窓会も平成10年から文化祭参加です。中村前会長（中13回）、現会長村松会長と引き継がれ6回目…

何かイベントを同窓会運営会で検討しましたが、例年並みの内容に落ち着きました。しかし、参加する以上、手抜きは出きません。運営会メンバーと理事協力者を得て今年もがんばりました。

いつもの巣鴨側の出入口には、今年も在校生力作の文化祭ゲートが設置されていました。

同窓会の場所は、63号館3階3年3組教室です。

今年も、同窓会員の写真展示（井嶋さん…高7回）および卒業アルバム、在学当時の寄贈資料等を展示、また、銀友取材の佐々木さ

## 平成十五年同窓会理事親睦旅行報告

第三回理事親睦旅行会を、平成十五年十一月二十二日から二十三日にかけて、群馬県上牧温泉で開催しました。参加人員は十一名でした。



恒例の宴席、盛り上がる前の一瞬の静寂



女将のお酌に???



朝食の席、旅館特製の豆腐に舌鼓



天神平スキー場にて、寒さに震えながら記念撮影



ロビーにてくつろぎの一時



（高3回）の著書の展示も行いました。それから来訪者へコーヒーとお茶・お菓子のサービスも例年通り行いました。

配布用として銀友31号、30号、29号を用意、また、同窓会のパソコンは、同窓会名簿のデータ閲覧および、同窓生のCDのBGM演奏用として活躍しました。

文化祭の日程は、9月27日と28日の両日でしたが、出展設営作業は、前日の26日と当日で行われました。また、文化祭準備は、8月の運営会および9月13日、20日の両日を取り、出展内容の検討準備をしました。

今年の来場者についても、在校生父兄およびこれから本郷を希望しようとする小学生や中学生のご父兄と生徒達、本郷学園関係者と同窓会々員の方々です。

会長・運営会・理事協力者の皆様、3年3組の生徒諸君の御協力ありがとうございました。この銀友が出る頃は、生徒諸君も同窓会々員ですね…

# 平成十五年定期総会報告

平成十五年六月二十一日午後三時より  
於 本郷学園二階会議室

平成15年度同窓会定期総会が6月21日土曜

3時から学園会議室で司会丹波副会長（高18回）より開会宣言され、開催された。開催にあたり、山内副会長（高3回）より会長欠席の事由が説明され山内副会長が代行した。学校側より池田教頭による本郷学園の現状及び、少子化に伴う学校経営の問題点との説明がありその中で魅力ある学校づくりそして、進学率を高め本郷高校の魅力を広める教育を行う等の報告があった。

総会に入る前、全員起立の上で物故者に対し黙祷が捧げられた。その後議長選出が行われ、総会の成立を報告し、議長に山内副会長（高3回）が選出された。書記には平野（高26回）が選ばれ、これより議事に入る。

議事は速やかに進行され、

## 第1号議案

平成14年度事業報告が秋元副会長（高7回）より詳細に説明され了承された。

## 第2号議案

平成14年度一般会計報告は寺田副会長（高24回）銀友32号24ページ参照の上詳細に説明され了承された。

## 第3号議案

平成14年度会計監査報告は松坂監事（高6回）により厳正な検査の結果適正に処理されたとの報告があり、了承された。

## 第4号議案

平成15年度事業計画案を秋元副会長（高7回）により説明があり、今年度も引き続き、学園祭文化祭等への参加の確認及び学校事業への協力が説明された。その中で山内議長（高3回）より理事に対し積極的な事業への参加と協力要請があった。尚、意見として斎藤氏（高13回）よりカミングホームデー等事業を考えてみてはどうか、また同窓会と先生たちとの交流の場を設けてみてはいかか等の、参考意見があった。また根本氏（中15回）より80周年にあたり同窓会としての事業は行のかとの質問があったが、学校として特別の事業を行わないとの事なので、同窓会としても特にないの見解であった。その後事業計画案は承認された。

## 第5号議案

平成15年度会計予算案寺田副会長（高24回）より説明があった。その中で望月副会長（高

3回）より名簿作成費用の一般会計予算への組み込みの説明があり、予算案は承認された。

## 第6号議案

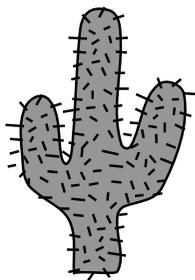
会則変更の件につき関塚副会長（高20回）から説明があり  
文語体から口語体への変更及び一部内容の見直し説明され、承認された。

## 第7号議案

平成15年度銀友編集方針が山内副会長（高3回）より説明され、銀友の内容についての説明、その他寄稿文についての要請があった。  
尚、秋元副会長（高7回）より寄稿文として提供されたが掲載できなかった原稿についての説明があった。  
また、望月副会長（高3回）より名簿作成中止についての再度の説明があった。  
内容として、

- 1、名簿は同窓会事務局にて管理保管を行う
  - 2、名簿の内容の充実を計るための情報提供の依頼
  - 3、コンテツの充実を計るため情報提供を同窓生に依頼する
- その中で後藤氏（中10回）より訂正箇所についての質問があった。  
続いて、田島氏（中20回）より理事名簿についての説明を求められた。内容は各理事の役職についてであった。

参考意見として、銀友に原稿を寄稿頂きなから掲載できなかった場合は、協力を頂いた



平野隆之（高26回）

## 平成 16 年度事業計画

自・平成 16 年 4 月 1 日 至・平成 17 年 3 月 31 日

〔平成十六年〕	
四月 七 日	高校・中学入学式（会長・副会長出席）
四月 十七 日	理事会・懇親会（本校会議室）
五月 十五 日	運営委員会（同窓会資料室）
六月 十九 日	定期総会（本校会議室）
七月 十七 日	運営委員会（同窓会資料室）
九月 十一 日	文化祭出展準備（同窓会資料室）
九月 十八 日	文化祭（同窓会ブース出展）
九月 二十五 日	文化祭（同窓会ブース出展）
十月 十六 日	運営委員会（同窓会資料室）
十一月 二十 日	運営委員会（同窓会資料室）
十二月 十八 日	運営委員会・忘年会（同窓会資料室）
〔平成十七年〕	
一月 十五 日	理事会・新年会（本校会議室）
二月 十九 日	運営委員会（同窓会資料室）
三月 十五 日	高校卒業式（会長・副会長出席）
三月 十九 日	中学卒業式（会長・副会長出席）
三月 十九 日	運営委員会（同窓会資料室）

## 平成 15 年度事業報告

自・平成 15 年 4 月 1 日 至・平成 16 年 3 月 31 日

〔平成十五年〕	
四月 七 日	高校・中学入学式（会長・副会長出席）
四月 十九 日	理事会・懇親会（本校会議室）
五月 十七 日	運営委員会（同窓会資料室）
六月 二十 日	定期総会（本校会議室）
七月 十九 日	運営委員会（同窓会資料室）
九月 十三 日	文化祭出展準備（同窓会資料室）
九月 二十 日	運営委員会（同窓会資料室）
九月 二十七 日	学園祭・文化祭（同窓会ブース出展）
十月 二十八 日	運営委員会（同窓会資料室）
十月 十八 日	運営委員会（同窓会資料室）
十一月 十五 日	運営委員会（同窓会資料室）
十二月 二十二 日	懇親旅行会（上枚温泉）
十二月 二十三 日	運営委員会・忘年会（同窓会資料室）
〔平成十六年〕	
一月 十七 日	理事会・新年会（本校会議室）
二月 二十 日	運営委員会（同窓会資料室）
三月 十五 日	高校卒業式（会長・副会長出席）
三月 十九 日	中学卒業式（会長・副会長出席）
三月 二十 日	運営委員会（同窓会資料室）

## 平成 16 年度一般会計案

自・平成 16 年 4 月 1 日 至・平成 17 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	5,607,455	卒業生記念品費	200,000
会費（1,500名）	3,000,000	文化祭出展費	300,000
入会金（平成16年度324名）	972,000	印刷費（一般）	25,000
受取利息	126	印刷費（銀友）	1,250,000
		発送費（銀友）	1,080,000
		発送手数料（銀友）	130,000
		通信費（HP含む）	120,000
		名簿管理保守費	260,000
		事務消耗品費	10,000
		会費郵便振替手数料	105,000
		振込手数料	4,000
		振替準備費	200,000
		次年度繰越金	5,895,581
合計	9,579,581	合計	9,579,581

## 平成 15 年度一般会計報告

自・平成 15 年 4 月 1 日 至・平成 16 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	3,243,941	卒業生記念品費	141,490
会費（1,150名）	2,794,000	文化祭出展費	52,930
入会金（平成15年度306名）	918,000	印刷費（一般）	26,760
入会金（平成14年度1名）	3,000	印刷費（銀友）	1,199,583
名簿編集積立金組入	1,937,371	発送費（銀友）	1,030,819
受取利息	126	発送手数料（銀友）	114,173
雑収入	20,000	通信費（HP含む）	103,127
		名簿管理保守費	252,000
		事務消耗品費	5,837
		会費郵便振替手数料	80,270
		振込手数料	1,994
		ラグビー部祝い金	300,000
		次年度繰越金	5,607,455
合計	8,916,438	合計	8,916,438

### 預金明細

現金	27,703	本郷学園同窓会 会長	村松達夫
郵便貯金	4,516,086	本郷学園同窓会 会計	寺田正美
東京三菱普通預金	1,063,666	本郷学園同窓会 監事	松坂忠明
合計	5,607,455	本郷学園同窓会 監事	高田隆義

# 本郷学園同窓会会費納入者一覽

平成十六年三月三十一日現在

中2回	岡田 孝一、栗山 颯	坂口 甫、前田 晴久、吉田 正吾、和氣 秀夫	原 栄藏、種代 幸雄、古内 正禎、森 恭久
中3回	安藤 正二、泉津井 玄、忍田 太郎、久保 元吉	小松 昭、高貫 繕晴	和田 節、鶴見 俊一
中4回	高木 章、高松 鶴吉、野本 三千雄	阿部敏一郎、高井 幸太、石原 清助、太田 恭二	阿田川昭治、按田仁三郎、秋田 禮一、伊藤 三郎
中5回	伊藤 英治、池谷 野本 三、金馬 勲、杉本 宗一	橋 正道、高橋 正、寺門 務、永田 三郎	乙部 邦壽、小川 清、大村 雅通、大野 肇
中6回	伊部 嘉丸、広瀬 武次	中村 允、山口 一弘、山口 明、山本 昌雄	尾前 広、垣 喜一郎、龟岡 周、川内 慎
中7回	伊佐山正治、大和 慎人、小出 一夫、佐原雄次郎	岩村 龍明、石川 芳正、奥田 富雄、小川 工藤	清水 英夫、田中 威、関谷 裕一、立山 正美
中8回	秀島 辰弥、堀江 勇治、山本 秀明、四谷 輝久	大塚 和彦、尾立 雅久、加藤 健造、工藤 一郎	田中 章治、田中 稔、田中 裕一、高山 文男
中9回	秋元 庄司、東風谷秀雄、笹岡 武徳、田中 昇	多賀 一郎、田橋 徹、西村 博、菱山 勇次	千葉 孝男、角折 幸輝、塚本 直人、土屋 二郎
中10回	秋元 庄司、東風谷秀雄、笹岡 武徳、田中 昇	藤井 繁太、藤井 稔、西村 博、菱山 勇次	寺口有喜、中山 昌弘、町田 滋、水田 裕昭
中11回	渡辺 正己	宮崎 和哉、南 稔、森本 三郎、古沢 修	村松 達夫、森田 宏、藤 清平、鈴木 隆
中12回	合場 信次、有賀 活郎、有村 純臣、鶴木 諄	阿部 敏秋、新井 文一、入江 幸夫、奥平 保正	愛 利三、雨宮 昭二、新井 義雄、青戸 隆
中13回	大塚秀太郎、五味 重春、佐々木岸太郎、齋藤富一	荻原 久雄、太田 年三、大久保雄二郎、河原 燦	青木 益嘉、伊藤 晃二、井樽 孝、磯川 清和
中14回	千葉 青保、徳田喜一郎、中田 正彦、長島 照雄	敬二、栗原 重雄、工藤 幸雄、近藤 颯	磯野 泰夫、岩崎 昭、岩淵 正己、五十嵐 宏
中15回	早速 爾郎、吉原 晴夫	勝合 邦夫、鈴木 利一、高沢 俊、竹中 節男	今里 隆、石田 順嗣、植田 茂、榎本 輯次
中16回	伊藤 龍昭、飯田 博通、大塚 信男、尾城 正一	土屋 健人、中山 甲一、中西 弘毅、中村 美登	岡田 光正、大原 功、大西 宏、大沢 善和
中17回	久住 進一、後藤 恒久、小泉 進、鈴木 勝美	根本 卓光、野村 秀二、荻原 友郎、畑 定	加藤 浩正、加藤 宣夫、蒲生 勇三、金子佐多美
中18回	永井 吉男、中川 時重、中川 統一、毛利 正利	吉松 八郎、宮森 清久、宮本 幸雄、山口 富三	菊地 照夫、北村廣三郎、北堀 幸雄、栗山 春雄
中19回	青野 康、市川 雄一、上田 義一、太田 芳哉	吉松 茂弥、吉田幸之輔、吉田 正、渡辺 好夫	駒井 嘉直、後藤 良一、佐々木 昭、佐藤 明夫
中20回	尾川 勝助、海洋 力、黒川 興文、近藤 要	渡辺 大乗、松田 光博	志田 芳久、清水 正美、菅野 英夫、菅野 武司
中21回	関口 二郎、高橋 耕一、塚田 芳雄、永田 忠哉	伊藤 篤行、大沢 欽一、大津 泰三、加瀬 量次	鈴木 卓三、瀬川 昌男、妹尾 尚、高橋 三郎
中22回	中野 武正、長妻 義鑑、茂呂 茂、八杉 繁	菊地 宏、木村 吉造、木村 斌夫、田中 凡夫	高橋 操一、鳥飼 直三、藤室 益行、田中 健一
中23回	新井 洗、今井田 貢、石原 豊、河北 展生	白井 明、高橋 樟守、竹田 斌夫、小中 凡夫	土屋 益夫、一鳥 昭治、西野 重義、富山 栄
中24回	上村 和夫、楠本善一郎、銀持 行雄、後藤 嘉徳	田橋 延男、近澤 勝利、野尻 利祐、羽根孝太郎	豊崎 益夫、友安 昭治、西野 重義、富山 栄

中2回	仲摩 邦夫、長谷 獅三、野本 昭、長谷川忠也	中原 豪彦、野々村長三、福沢 昇、江森 俊男	前田 明男、渡辺 勝、渡辺 昭義、香森 哲也
中3回	馬場 弘治、服部星之助、服部 定善、曾垣 順次	相川 厚、佐治 栄一、外内 悦雄、櫻井幸次郎	市川錦太郎、久保田義喜、風間 幹雄
中4回	藤田 弘治、細井 孝、菩提寺悦郎、岡野 芳夫	岡村 孝彦、小倉 雅文、坂野 重一、櫻井 泰	秋元 幹夫、井島佳二郎、島崎 幸人、豊島 宏
中5回	松廣 翠、松田 裕、松本 純治、前田 和男	西條 哲、稲田 稔、清水真太郎、瀬川 澄男	平田 満男、山内 周、矢田 明二
中6回	宮田 昭平、水原 奎一、村野 桂三、武藤 泰夫	豊嶋 敬司、中村 嘉宏、西島 成一、羽生 桂佑	内村 光孝、海老原 博、小野寺 博、大木 昭一
中7回	森 正徳、森本 肇、山田 卓治、吉田 重雄	秋野 清隆、廣瀬 六郎	角澤 良宣、金子 隆一、木塚 順夫、小澤 秀幸
中8回	渡部 豊一、渡辺 信夫、板橋 金蔵、岡田 貢一	林 政、篤 碩男、石川 達夫、石塚 豊	仁科 二彦、藤卷 健三、中野 孝一、南谷 修
中9回	太田 健三、大久保武司、大野 勝弘、菅 文男	志野原三津夫、小浜 卓司、小平 光郎、佐々木三郎	吉村 規史、吉田 光男、渡邊 衛、渡邊 茂明
中10回	重山 謙治、柏原 英一、菊川 勇、佐藤 輝義	佐々木忠次、佐藤 正、齊藤 邦衛、坂田 実	芥川 正義、江原森太郎、田辺 博昭、小林 常甫
中11回	亀永 政夫、外川 一雄、曾川三千昭、玉川 昭	地曳 秀雄、高橋 正光、高原 秀信、中島正次郎	西江 正晴、比企 正憲
中12回	高橋 實、高橋 昭彌、竹本 三男、西村 努	長崎 一、根本 強、野口多喜男、平子 浅雄	青木 弘三、井上栄三郎、岡本 信也、小川 敏
中13回	保谷 六郎、松林 豊、増田 速水、室久敏三郎	前田 善男、光安 伸夫、望月 敏郎、山口 洋司	上岡 光男、小島 友宏、田中 秀明、津原 巖
中14回	山崎 達司、山本 巖、築 崇、高橋 文男	岩内 英夫、吉田 峰光	塚原 静夫、山崎 秀行、林田 有宏、宮崎 克巳
中15回	市川 恒雄、西村 和男、大屋 忠、大塚 康夫	岩瀬 禎成、西江 孝夫、向井 利男、八嶋 政臣、	茂出 善夫、小池 弘祐
中16回	金澤 一朗、久保 政義、倉田桂二郎、田島 利男	渡辺 武男、佐々木 直剛、廣瀬 澄	太田 善夫、大槻 勝英、久保 国夫、熊木 宏治
中17回	対馬 誠也、鶴岡 俊雄、土肥 隆、中島敬太郎	井沢 清、市村 近、梶野 伸二、片桐幸一郎	市倉 洋一、大槻 勝英、久保 国夫、熊木 宏治
中18回	羽山 健児、橋本 公成、中西 善郎、久永 幸隆	島崎 雄司、関口 叔軌、桑谷 登、谷川 洋明	鈴木 教司、竹村 義教、埴 和道、山本 達雄
中19回	船橋 隆馬、藤林 晃、皆川 敬次、山下 保次	中林 忠昭、横田文一郎	渡辺 勝平、
中20回	市川 保、菊入喜三郎、藤原 利彦、板倉 厚	伊藤洋之助、稲垣 泰輔、石井 延彦、池内 春俊	阿田川信夫、相川 清、明石 安邦、岩城 正幸
中21回	阿知波 健、井上 宏之、市橋 國雄、板倉 厚	奥村 茂、小椋 一、大久保義勝、勝野 恵之	岡田 勲、方波見 茂、清川 洋吉、越路 往輝
中22回	持田 敏郎、中林 商藏、二宮 重恒	神崎 俊彰、川窪 国明、柏村喜徳郎、久保田友喜	新藤 毅、杉本 繁、中村 久、渡辺 則綱
中23回	根本 幹弘、古澤 秀信、藤田 隆、星野 昌弘	栗原廣太郎、小林 金則、小野 秀行、佐瀬 友真	斎藤 安雄、杉山 雅一、高井 英行、高田 隆義
中24回	有田 利光、井筒 千秋、田中 昭二、伊藤 文二	鈴木惣一郎、関 計一郎、仙波 忠志、高橋民次郎	峰岸 桂介、森坂 展行
中25回	越田 和夫、坂本 庄司、高田 政雄、田島 達策	高木 桂三、谷澤 文雄、津久田愛之助、中山 寿夫	池田 明、小野寺良雄、賀澤 光浩
中26回		中村 義一、谷澤 文雄、津久田愛之助、中山 寿夫	浅井 俊一、大路 梧、小松 良栄、榎原 康夫
中27回		丸橋 修、松坂 忠明、松本 易夫、松本 幸司	齐田与四郎、丹波信三郎、田原 克人、根本 輝久

高19回 石原 崇光、遠田 守利、木下 茂男、齊藤 忠  
 中村 博、沼尻 卓、長谷川 実、水野 睦夫  
 武藤 昇、吉倉 幸信  
 高20回 我妻 光久、大塚 一郎、大野 英治、後藤 文雄  
 小林 基展、佐々木正紀、酒井 孝一、関塚 正治  
 戸張 友晴、利根川光一、西原 孝一、関塚 正治  
 堀部 雅美、矢代 順一、良川 真 眞、野水 国一  
 荒井 章登、岩越 政美、菊地 正美、小堺 孝雄  
 杉山 利博、鈴木 斉、中田 守喜、中里 勝男  
 高21回 遠藤 正規、早川 盛男、榎山 隆史、矢沢 修三  
 池野 直樹、小国 信男、太田 治、高橋 博、仲  
 原 辰男、平柳 恵作、曲谷 良夫、飛田 茂  
 高22回 石原 涉、岡田 晃、掛川 敏行、野藤 久幸  
 高23回 池野 直樹、小国 信男、太田 治、高橋 博、仲  
 高24回 石原 涉、岡田 晃、掛川 敏行、野藤 久幸  
 高25回 日高 詳介、松浦 孝之、松島 和己、村上 信夫  
 清田 健蔵、栗山 孝治、坂井 成一、田島 秀行  
 高26回 伊藤 正彦、伊藤 豊、稲田 俊和、岩崎 一  
 笹沼 博之、柴 安弘、杉浦 晶、末永 克彦  
 高27回 吉田 徳義、寺内 貞文、松崎 敏弘、山口 登  
 高28回 井口 隆、岡野 智彦、太田 亨、金子 一清  
 菅原 義則、中井 雄一、川俣 弘、堀江 至久

高29回 宮下 雅広、山本 和弘  
 安住 高弘、石塚 実、飯泉 彰裕、宇佐見 誠  
 大久保 実、大橋 弘明、大野耕太郎、鳥 幸男  
 丹野 修辞、田中 和男、藤井 政夫、眞鍋 勝俊  
 高30回 横山 鉄夫、渡辺 嘉伸  
 川崎 雅弘、宮部 豊  
 高31回 石井 英貴、佐藤 修一、富永 浩伸、鈴木 宏昌  
 藤久 小池 治、齋藤 政嗣、水堀 義秀、  
 山畑 邦裕、吉田 法夫  
 高32回 柿本 雅久、小池 治、齋藤 政嗣、水堀 義秀、  
 高33回 浅賀 安昭、磯田 浩之、遠藤 千秋、小山雄紀裕  
 高藤 卓、鈴木 英雄、鈴木 康悦、高橋 雅哉  
 高34回 西 洋一、福本 学、吉田 哲也、中野 一美  
 高35回 明表 正道、金子 泰久、平澤 淳、宮崎 雄一  
 藤本由紀夫、鈴木 徹、坂宮 栄一、平野 治  
 丸橋 英正、茂田 孝元、本莊 恭一、石澤 浩明  
 井田 七海、野口 貴洋、増岡 武宏  
 川端下徳之、加藤 吉郎、田中 正二、有坂 直大  
 田邊 賢一、松本 圭一、中上 玄文  
 高36回 高野 智、荒井 康雄、小野寺和彦、根岸 延存  
 高37回 土田 賢一、横川 高樹、城 和夫、矢島 俊之  
 高38回 矢野 克行、藤平 克彦、高野 記好  
 高39回 吉本 光博、住吉 一泰、猪原 誠、大野 秀樹  
 山口 史之、工藤 琢、中野 政則、森田 邦治  
 原口 智、上原 孝治、有野 篤、矢嶋 実  
 石川 雅博、木村 二郎、保谷岳太郎、木納 俊之

高40回 志賀 篤史  
 丸橋 俊正、日枝 広道、高橋 拓朗、田畑 準  
 高41回 河越 太郎、小掛慎太郎、関口 隆之、荒井 信行  
 岡田 博、小林 俊明、富沢 信夫、紙谷 淳一  
 梅田 昌之、増田 茂、齋藤 哲也、大久保 泰  
 細田 昌孝、栗山 正信、太田 良一、館江 宏明  
 高42回 松本 良孝、栗山 昭一  
 佐々木好太郎、花田 憲彦、本井 利生、三村 淳悟  
 田村 恵輔、大石 隆之、大澤 清、清接間 一彰  
 藤田 恵輔、藤田 隆之、大貫 和俊、佐野 禎  
 石本健太郎、塩家 吹雪  
 高43回 千代延 尚、萩原 孝明、伊藤 正規、松本 祐一  
 上原 弘行、京都 源、中田 一郎、針谷 寿紀  
 吉田 永弘、中村 歩希、山野邊史史、加藤英四郎  
 中村 剛  
 高44回 北村 彰浩、久保村 豊、丹波 宏崇、利根川昌紀  
 小林 洋一、加藤 立、浅野 裕之、津田 達広  
 木下 侖雄、水見 健一  
 阿部憲太郎、高井 亮仁、岡田 浩典、中野 隆之  
 柴崎 直樹、金子 隆、北澤 卓弥、山田 洋一  
 荒井 昌之、渡邊 信貴  
 高45回 山崎 真史、柄澤 智輔、柳瀬 崇博、北岡 竜行  
 野村誠太郎、関根 傑紀  
 高46回 高井 智任、高橋 圭祐、福井 雅啓、山中 弘毅  
 金子 健、橋本 直人、高橋 克英、矢澤 幸展  
 稲生雄一郎、中村 織人、高橋 健次、柳沼 良  
 川島 昌弘、小宮 秀介

高49回 堀 洋平、増田 望、立川 嘉久、林 誠吾  
 荒井竜太郎、福井 健史、安井 賢、上野 光信  
 小澤 正、坂上 聡志、森 貴洋、渡邊 龍秋  
 島田 和輝、中溝 健晴、近藤 大介、千種 伸宜  
 山田 元文  
 高50回 豊川 浩成、小林 悟、村澤 万里、池 祐一  
 下関 秀之、岡田 有道、鳥村 有希、田原 悠西  
 乾 嘉宏、網島 宗介、瀧川 道生、田邊 誠  
 浅野 良太、荒船 芳充、新村 光央、高原 修司  
 間瀬 俊一  
 高51回 天野 秀忠、蛟島 仁、梶野 貴経、白石 佑一  
 佐藤 英明、須賀 裕哉、西岡 新平、萩原 将明  
 新井 亮輔、田中陽太郎、根本 周平、増田 幸久  
 溝淵 亮、荒川 桂輔、斉藤 国彦、滝澤 一晴  
 行木 達朗、若杉 文寛、池下 賢明、内海 正人  
 永井 吉彦、中澤 利幸、橋爪 雄志、服部 大祐  
 濱野 和明、堀越 亮、宇田 順也、乙丸 貴史  
 染谷 快典、丹羽 大輔、古島 剛、皆川 裕司  
 吉野 一哉、若西 良介、大塚久仁郎、稲川 達也  
 井上健太郎、今田 卓郎、中井慎一郎、稲川 達也  
 関澤 泰明、高橋 智久、高邊 宏幸、成瀬 隼人  
 高52回 石尾 常太、千田 昌宏、坂本 泰宏、相馬 耕平  
 鈴木 浩太、長谷川智洋、中島 哲仁、藤木 利夫  
 竹内 潤一、野村 高峰、上坂 理、加藤 隆之  
 坂田 憲和、関本 英克、平野 尚司、藤澤 健夫  
 綿引 祥、落合 祐之、鈴木 崇秀、鈴木 良昌  
 高橋 聖和、篠原 洋次、関根 佑輔、中里 和彦  
 横井 健、赤松 篤、猪越 正直、大塚 邦紀

高53回 馬渡 千高、伊田健一郎、谷口 竜大  
 内田 修介、渡邊 昌一、今井 秀星、長橋 智久  
 吉田 朋大、栗山 孝幸、中井 秀昌、永島 広隆  
 福森 洋輔、望月堅太郎、山浦 太一、荒井 大樹  
 奥山 雄太、齋藤 秀雄、鈴木 穰児、長南 基  
 塚田 貴伸、大塚 憲、小島 将敬、菅原健一郎  
 田中 義人、鶴岡 廣哉、安達 広孝、眞一  
 坂口 洋平、中村 旭、日谷 爽、清水 章宏  
 内原 嘉昭、海老 紘彰、後藤 泰治、外谷 泰成  
 三村 純一、深山 敬大、山崎 雅弘、佐藤 達哉  
 高波 佑介  
 高54回 齋藤 智 坂田 和也、村上 一博、一瀬 有里  
 石澤 慧、財満 泰三、平山 智貴、吉澤順一朗  
 小谷 貴之、五代 隆史、高橋 祐磨、吉田 繁幸  
 上田 泰之、小田 敦史、岸 武史、永野 幸  
 江間 裕樹、糸川 拓真、大森 秀昭、清水 圭  
 辰巳 裕紀、鶴木 学、海老原 剛、久保 隆之  
 高田 誠、武田 真吾、一本木利英、加藤 佑典  
 亀井 慎哉、北村 徳宏、小泉 孝人、白土 峰大  
 土橋 篤仁、北條 弘明、堀越 周、相川 和基  
 浅井 隆介、河相 匡彦、鎌田 亨、小松嵩志朗  
 齋藤 覚、満谷 篤史、中村 和寛、長尾隆大朗  
 植田 雄一、川井 紳史、須賀 太郎、上加世田暁  
 吉川奈由太、岸 優太、戸澤信太郎、堀江 翔一  
 和田 敏治、芦川 浩大、長 孝英、小泉 信吾  
 中川 洋一、正木 健彦、森本 啓士  
 飯田 拓二、鈴木 知也、鈴木 理啓、牧野 恭平  
 宮古 佑馬、矢崎 誠、池田 一輝、金子 優太

高47回 野村誠太郎、関根 傑紀  
 高48回 高井 智任、高橋 圭祐、福井 雅啓、山中 弘毅  
 金子 健、橋本 直人、高橋 克英、矢澤 幸展  
 稲生雄一郎、中村 織人、高橋 健次、柳沼 良  
 川島 昌弘、小宮 秀介  
 新村 佳央、仲島 裕皓、中村 昌希、長岡 剛史  
 本藤 博史、横川 三成、秋元恵多郎、市丸 真一  
 柴田 晴亮、寺島 匠、堀 裕人、金澤 正剛  
 原田 大輔、堀内 康平、山田 俊介、岩崎 彰仁  
 大河内伸朗、久保木秀彦、佐藤 亮太、住吉 圭太  
 松本 浩治、三浦伊一郎、向井 俊、磯水 一輝  
 遠藤 瞬、川那辺 翔、櫻河 隆之、深水 雅生  
 堀口 達郎、坂本 直國、佐々木崇博、佐藤 遼太  
 奥村 拓郎、坂本 直國、佐々木崇博、佐藤 遼太  
 相馬 康晴、染谷 泰史、永井 修、東野 聡  
 福富 崇泰、赤木 俊雄、小川堅太郎、金子 駿太  
 神島 尚浩、菊地 史朗、朽名 正道、國安 徹  
 平田 敬史、三谷 宏樹、志村 希、杉村 英俊



# 本郷学園同窓会会則

## 第一章 名称及び位置

《名称》 第一条 本会は本郷学園同窓会という。

《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号本郷学園内に置く。

## 第二章 目的

《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかることを目的とする。

《事業》

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

会員の親睦会の開催、会誌の発行、母校の後援、名簿の整備、ホームページの管理等。

## 第三章 組織・役員

《会員》

第五条 本会は次の会員により組織する。

会員は、母校卒業生及び母校に在籍した者で理事会の承諾を得た者とする。

《役員》

第六条 本会には次の役員を置く。

名誉会長 一名、顧問 若干名、相談役 若干名、会長 一名、副会長 若干名、理事 各回期一乃三名、監事 二名

《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

名誉会長は本郷学園理事長を推薦する。顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに会長経験者を推薦する。

相談役は副会長・理事・監事の経験者で会長の委嘱により推薦する。

会長は理事会において理事の互選により選出する。

副会長は理事中から会長の委嘱によって

定める。

理事は、各回期から選出し総会の承認を得るものとする。但し選出のない回期からの理事は一名を会長が委嘱し総会の承認を得るものとする。

監事は、会員中から選出し総会の承認を得るものとする。

《役員の仕事》

第八条 役員は次の職務を行う。

会長は会を代表して会務を総括執行する。

副会長は会長を補佐し会長事故あるときは副会長間において定める順位により会長事務を代行する。

理事は、理事会に出席して、本会の運営に参画する。

監事は会計を監査する。

顧問・相談役は会長の要請により会議に出席する。

《役員の仕事》

第九条 役員の仕事は三年とする。

## 第四章 会議

《会議》

第十条 本会の行う会議は、総会、理事会、運営委員会とする。

《総会》

第十一条 総会は本会の最高議決機関とする。定期総会は毎年六月に開催し会務報告、役員承認、会則改正その他本会に関する重要事項を審議する。

会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

《理事会》

第十二条 理事会は理事により構成し理事の過半数の請求、もしくは会長の要請により開催し本会に関する一般事項を審議する。

《議決》

第十三条 本会には次の役員を置く。

第十四条 理事は担当を定めて会誌の発行、企画、会計、庶務その他の事業を行う。

第十五条 理事会において立案された本会の事業は総会の議決を経るものとする。但し、急を要する場合は理事会において処理するものとし、総会の承認を得るものとする。

《事業年度》

第十六条 会員は総会において発言権、議決権を有し、総会、理事会の議決は出席者の過半数をもって決する。可否同数の場合は議長が決める。

二項 運営委員会に副会長中より会長の委嘱によって事務局長一名をおく。

《事業の遂行》

第十七条 理事は担当を定めて会誌の発行、企画、会計、庶務その他の事業を行う。

《事業の遂行》

第十八条 本会の経費及び事業資金は入会金及び会員の年会費並びに寄付金その他を以てこれに充当する。

一旦納入した金品は一切返還しない。

第十九条 本会の収支決算は毎年総会に於いてこれを報告、承認を得るものとする。

第二十条 会員は年会費を一口金式千円として一口以上を毎年納付するものとする。卒業時の入会金は参千円とする。

《議決》

第二十一条 本会には総会において出席議員の三分の二以上の賛成を経て改正する事ができる。

《事業年度》

第二十二条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌三月三十一日に終わる。

《事業年度》

第二十三条 本会則は平成十五年六月二十一日より施行する。

## 計報 謹んでご冥福を お祈り致します

中02回	中03回	中05回	中06回	中07回	中08回	中09回	中10回	中11回
椎橋 清行	長沼 守人	齊藤 長夫	塩谷 康三	井上 栄一	田中 宗一	服部 嘉丸	伊佐山 正治	伊藤 善康
吉田 弘幸	森下 茂男	鈴木雅一郎	渡辺 正己	中田 正彦	大沢 清	加藤 嘉佑	小川 邦夫	菊地祥一郎
中12回	中13回	中14回	中15回	中16回	中17回	中18回	中20回	渡辺 三郎
富田六之助	堀 一郎	今井 幸太	平本 義雄	田中 光晴	南 敬	福田 晃	松田 光博	田中 光男
波木 一衛	山田 純三	井桁八三郎	影山 清	柳田 輝利	三上 泰永	野田 重直	堀 一郎	渡辺 三郎

中22回	高03回	高05回	高06回	高08回	高13回	高20回	高23回	高26回	高29回	高38回
越田 和夫	篤 碩男	渡辺 五郎	横田文一郎	土信田 弘	山田 俊典	原田松太郎	水田 哲郎	菊田 弘行	重 博志	高橋 秀夫
宇佐見 誠	栢原 浩一	敬称略	同窓会にご連絡のあった方のみ掲載 しております							

## 文化祭に同窓会サロン!!

同窓生相互の交流を図り、それと同時に同期会やクラス会開催のきっかけ作りの場を提供することを通じて同窓会の活性化を図ることを目的として、本年度同窓会の新たな試みとして、本郷学園文化祭開催に合わせて同窓会サロンを開設することといたしました。サロンでは簡単な酒食を提供し、グラスを傾けながら談笑できる場といたします。たくさんのお客さんが来場されることを願っております。

### 利用要領

◆開催日時 9月26日(日) 13時より16時まで

◆場所 三菱養和会内「レストランパルテール」

◆利用方法 文化祭会場内同窓会ブースに立ち寄り同窓会サ

ロン利用券を受け取り会場にお持ちください。  
なお文化祭の同窓会ブースの場所は未定です。  
であらかじめお断りいたします。

## 編集後記

◆ここ数年「銀友」の表紙を飾った写真の撮影者でもある村松前会長がこのたび会長職を退かれました。「銀友」編集委員一同、厚く感謝申し上げますと同時に、これからも健康に留意され引き続きよい写真を「銀友」に寄せいただくようお願いいたします。

◆平成15年度は、本郷学園ラグビー部が10年ぶりの花園出場を果たし同窓生諸氏も胸を躍らせたことと思います。そこで、学園での応援責任者であった関口先生に本郷ラグビー奮戦記を寄稿して貰いました。後輩の活躍に改めて喝采を送りたいと思います。

◆32号でもお願いしましたが、各界で活躍をしているインタビュ対象者としての同窓生を探しています。同期生はもとより先輩、後輩でこういう人がいるというような情報を同窓会事務局までお知らせください。またそのような人に会って話を聞きたいと思う人も求めています。紙幅の関係で「銀友」紙上では紹介しきれない含蓄に富んだ話、生き様の指針になる話などさまざまな話を聞くことができ貴方にとって必ず大いなる糧となることとしましょう。若い方にぜひ手を挙げてもらいたいです。

◆また、毎回お願いしていますが、会員の皆さんからの寄稿をお待ちしています。一般的な随筆、紀行文、趣味や特技の紹介、なんでも結構です。気軽に文をお寄せください。なお、「銀友」の編集についての意見や希望も事務局までお寄せください。

銀友編集委員一同

南



本年度の文化祭は  
9月25、26日です。  
卒業生のご来場を  
お待ちしております。

平成16年6月1日発行

**本郷学園同窓会**

発行責任者 山内 英夫

〒170-0003 東京都豊島区駒込 4-11-1 本郷学園内  
同窓会へのお問合せはFAXにてお受けします。

FAX：03-3917-0007